

I 令和4年度 第一中学校・仁科台中学校の経営ビジョン

1 教育理念：「聴く学校」

学校は、生徒たちが学び合い育ち合うことを学習指導と生徒指導を専門とする教師が保証する空間です。そこでは、一人ひとりがかけがえのない存在であることを互いが認め合うことが重要です。そのためには「聴く」ことが基本であると考えます。

「聴く」とは、「相手の心に寄り添いながらきく」「相手の置かれている状況を推察しながらきく」ことです。この「聴く」は、音や言語を情報として耳に入れる「聞く」よりも、相手とつながろうとする意志をもつものです。

これまでの中学校教師は、ともすれば教科中心に「できる、できない」で評価しがちで、そのことが生徒を正しく理解することの妨げになっていました。生徒を正しく理解するとは、大きな視野から生徒一人ひとりの特性をとらえることです。それが、生徒の尊厳を守ることなのです。教師がこのような見方で教育活動を行うことにより、生徒は自らの意思で学びに参加していくことでしょう。

本校では、このような考えの下、教育理念「聴く学校」を掲げ、全ての教育活動の場で「生徒の存在を丸ごと受け入れ、生徒の声や心の声（声なき声）に耳を傾け、共に歩む教師」を貫きます。生徒が安心して自分を表出し、学ぶことのできる学校になることを願って。

2 目指す学校像：生徒が生きることと学ぶことを統合する学校

学校は学びの場であり、生徒の夢と希望を育む場でもあります。人生で心と体が最も成長する青年期の大半の時間を、生徒は学校で過ごします。その中で最も長い時間が授業です。生徒にとって、授業は仲間や教師と共に新たな世界と出会い、他者と対話する時間であり、新たな自分の可能性を見出し、自己を形づくるための学びの時間であるべきです。本校の生徒を教育目標の「自立した学び手となる」へと導くためには、生徒が深く学べる授業を提供することが教師の責務となります。

生徒の学びは無限に広がっていきます。生徒は、誰のものでもない自分の問いを追究すると、その問いによって、さらなる問いを生み出し、ものごとの奥行にふれていきます。それは、ものごととの対話、友との対話、自己との対話を繰り返しながら、自分の考えを更新し、自らを高めへと進める営みです。

現在、生徒は様々な問題と直面しており、その多くは関係性にかかわる問題です。ですから、学習指導と生徒指導を一体としてとらえる対話を基盤とする授業によって、生徒を取り巻く課題を解決すべきです。生徒は友達や教師からのさりげない一言で生きる希望や自らの可能性を広げていきます。そして、自分の中で生きることと学ぶことを統合する経験を通して、学ぶことの意味を自分のことばで説明できるようになります。

聴くことを貫き、学ぶことの意味を実感できる学校文化を築くことにより、大町の中学生に生涯にわたって学び続けていく力をつけたいのです。

第一中学校長・仁科台中学校長